

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2009 年 1－6 月期〕

当連合会は全国の協会会員企業の協力を得て、平成 21 年 1 月-6 月期日の景況動向調査を実施し、調査結果を次の通りまとめました。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪い」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

《調査結果》

売上高及び処理量は連続悪化となり、依然として厳しい状況にある。

- ・売上高は平成 21 年 4～6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲25.8%悪化。
- ・処理量は平成 21 年 4～6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲14.1%悪化。

○業況感 DI（「好転」・「増加」－「悪い」・「減少」の企業割合）における景況判断 DI は、「好転」とみる企業は 2%、「悪い」が 78%で、▲76 となっている。

以下、業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲59 で、平成 20 年 10～12 月期から 7 ポイント低下。連続で悪化。
- ・処理量 DI は▲56 で、平成 20 年 10～12 月期から 7 ポイント低下。連続で悪化。
- ・契約単価 DI は▲37 で、平成 20 年 10～12 月期から 14 ポイント低下。連続で悪化。
- ・営業利益 DI は▲58 で、平成 20 年 10～12 月期から 1 ポイント改善。
- ・資金繰り DI は▲32 で、平成 20 年 10～12 月期から 1 ポイント改善。
- ・借入難易度 DI は▲19 で、平成 20 年 10～12 月期から 7 ポイント低下。連続で悪化。
- ・設備投資 DI は▲37 で、平成 20 年 10～12 月期から 1 ポイント改善。
- ・従業員 DI は▲19 で、平成 20 年 10～12 月期から 6 ポイント低下。連続で悪化。

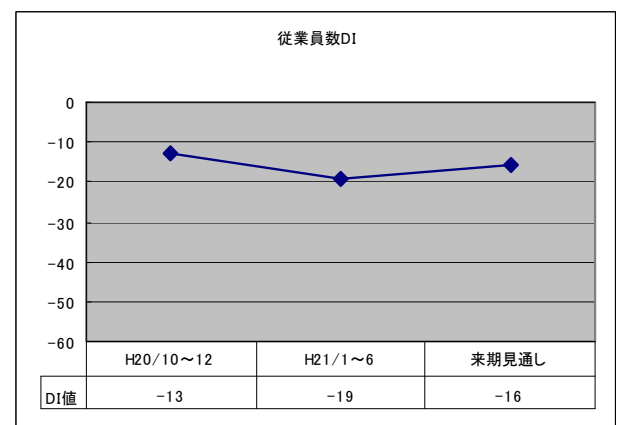
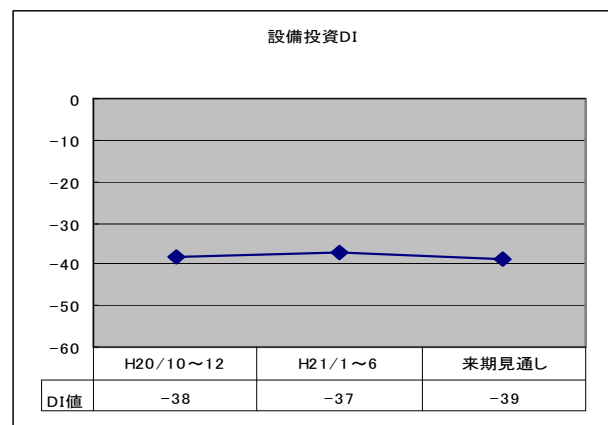
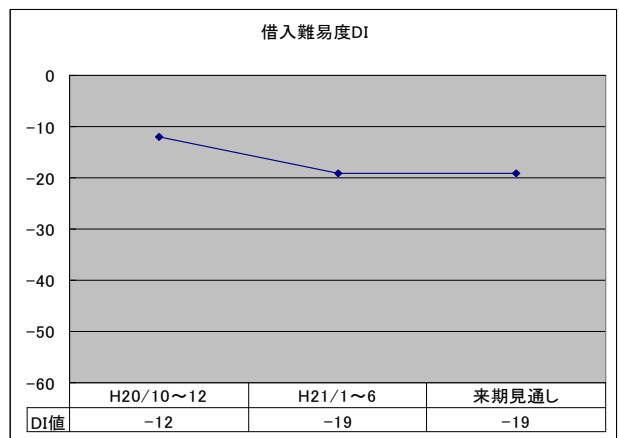
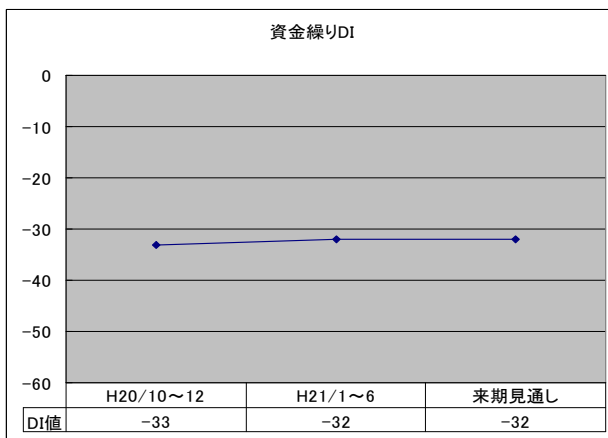
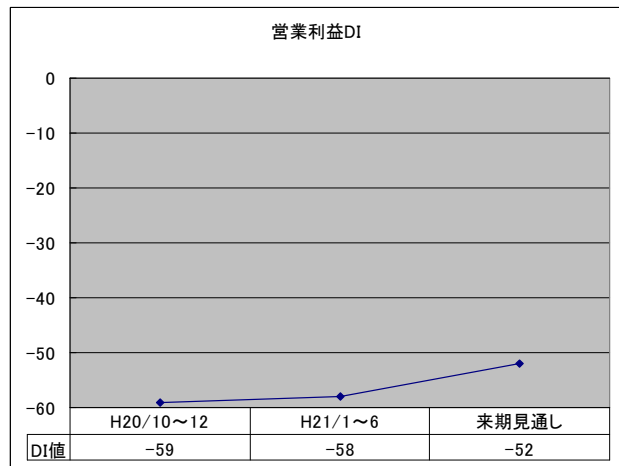
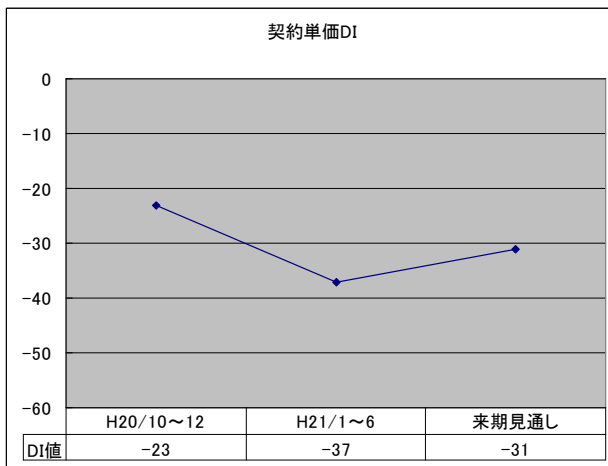
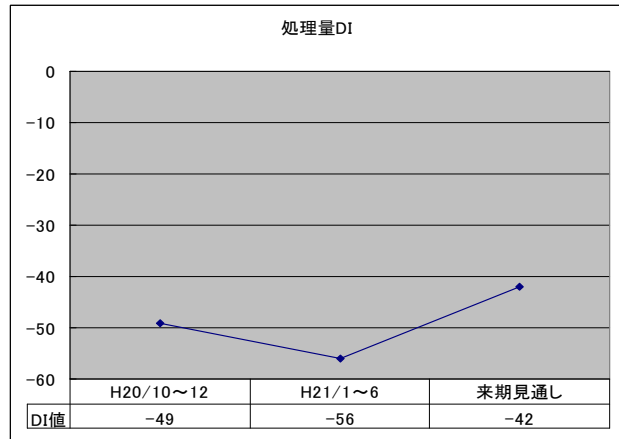
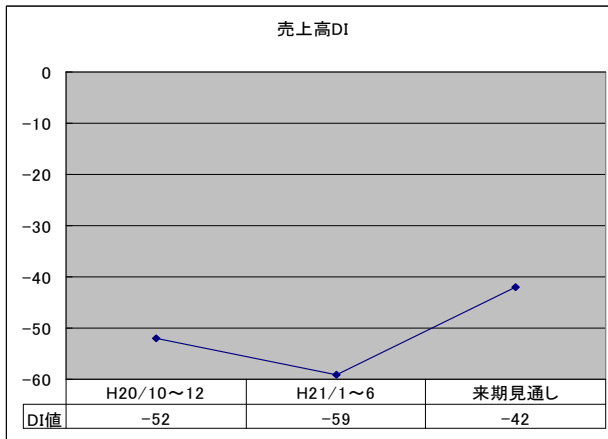
○今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲62 となっている。（設備投資 DI が悪化しているが、それ以外の指標において、同水準もしくは改善する見通し。）

○売上高の動向については、平成 21 年 1～3 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲19.0%（中小企業▲20.6%）、平成 21 年 4～6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲25.8%（中小企業▲26.3%）となり、連続で悪化している。

○処理量の動向については、平成 21 年 1～3 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲11.4%（中小企業▲12.2%）、平成 21 年 4～6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）▲14.1%（中小企業▲13.6%）となり、連続で悪化している。

○従業員減少率については、「5%未満」14%、「5-10%未満」7%、「10-15%未満」4%、「15%以上」2%となっている。減少理由については、会社都合の理由が 94%を占め、景況悪化が企業における従業員の減少として表れている。

○経営上の問題点については、1 位「需要の停滞」、2 位「同業者相互の価格競争の激化」、3 位「顧客先からの値下げ要請」、4 位「取引先の減少」、5 位「新規参入者の増加となっている。



《調査の要領》

- 調査の対象：前回の調査（2008年10-12月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート調査
- 調査期間：平成21年7月1日～7月31日
- 回答企業数：438社